

## オ 奉仕的な活動の報酬について、受けるべきではないと考える高齢者が増加

地域のための奉仕的な活動の報酬についての考え方をみると、「地域活動だから、謝礼や報酬などは受けるべきではない」が46.3%と最も多く、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいは受けてもよい」が37.9%、「交通費などの実費に加えて、謝礼の意味で日当ぐらいの報酬は受けてもよい」が6.1%となっている（図1-2-53）。

### （2）学習活動に参加している高齢者は2割程度

60歳以上の高齢者の学習活動への参加状況についてみると、何らかの学習活動に参加している者の割合は17.4%となっている。具体的な活動では、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が7.6%、「公共機関や大学などが開催する公開講座など」が4.8%などとなっている（図1-2-54）。

## 6 高齢者の生活環境

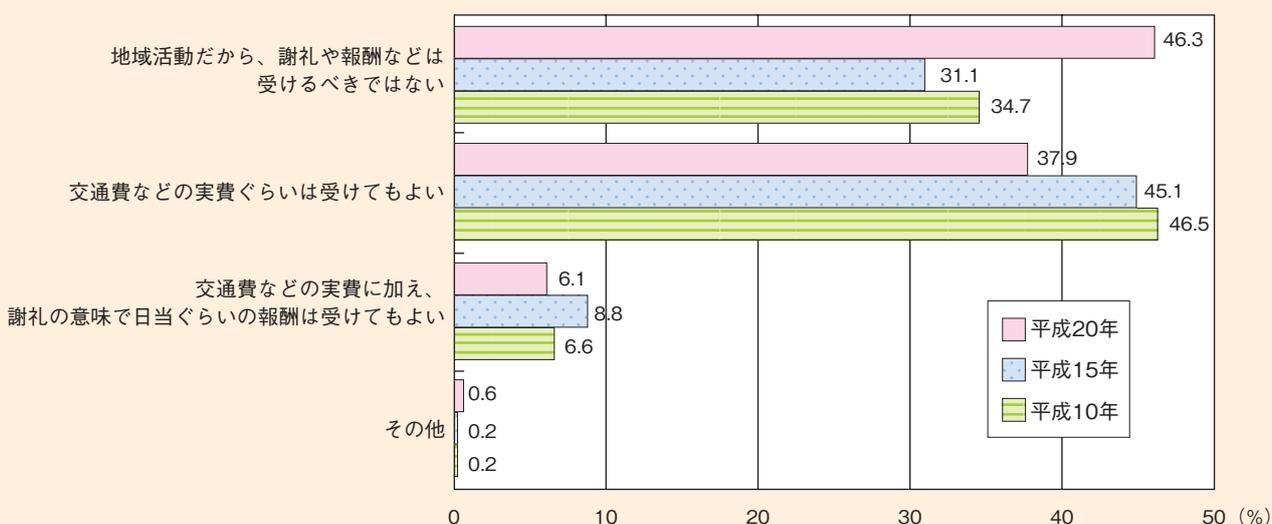
### （1）高齢者は住宅と生活環境に概ね満足

#### ア 高齢者の7割は現在の住居に満足

55～64歳の男女に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で72.8%、持家で75.9%、借家で54.2%となっている（図1-2-55）。一方、現在の住宅に「不満」または「やや不満」を持つ人は総数で27.0%であり、不満の理由は「住まいが古くなりいたんでいる」が52.2%、「住宅の構造や造りが使いにくい」、「台所・便所・浴室などの設備が使いにくい」がそれぞれ約35%であった（図1-2-56）。

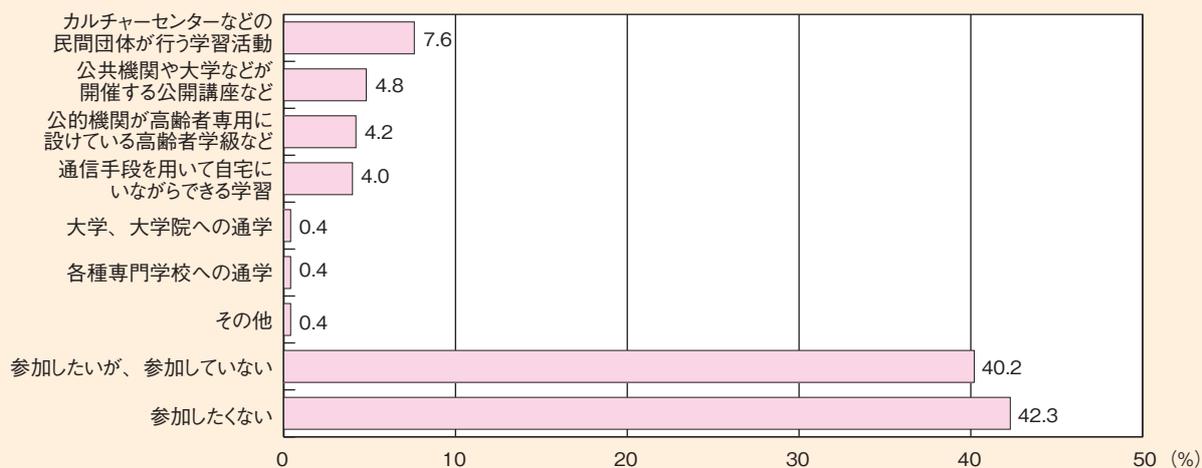
60歳以上の高齢者が、身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみると、「現在の住宅にそのまま住み続けたい」が37.9%、「現在の住宅を改造し住みやすくする」が24.9%、「介護を受けられる公的な施設に入居する」が17.9%となっており、現在の住宅に住むことを希望している者は、62.8%と半数以上を占めて

図1-2-53 奉仕的な活動の報酬についての意識



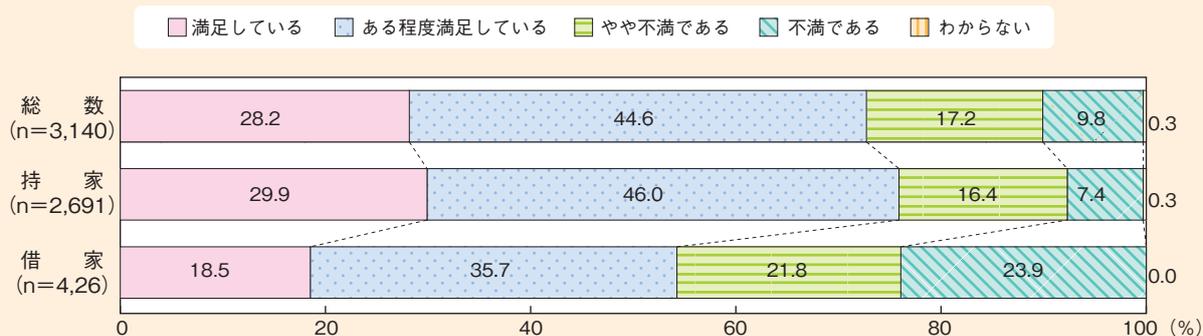
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）  
（注）調査対象は、60歳以上の男女

図1-2-54 高齢者の学習活動への参加状況（複数回答）



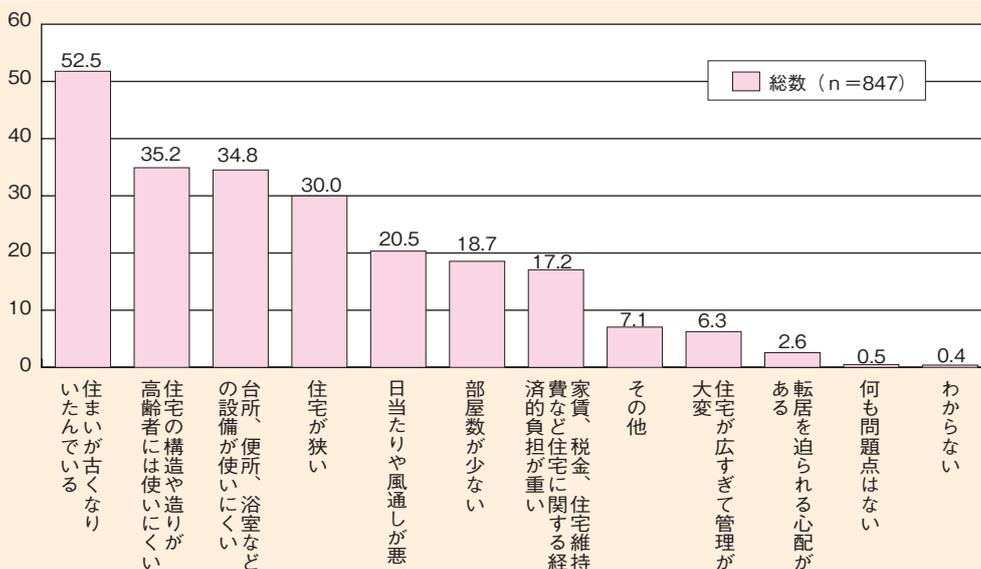
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）  
 (注) 調査対象は、60歳以上の男女

図1-2-55 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「中高年者の高齢期への備えに関する調査」（平成19年）  
 (注1) 調査対象は55歳～64歳の男女。  
 (注2) 持家と借家の回答者数と総数の差 (n=23) は給与社宅等。

図1-2-56 現在の住宅に関する不満の内容（複数回答）



資料：内閣府「中高年者の高齢期への備えに関する調査」（平成19年）  
 (注) 調査対象は55歳～64歳の男女で、現在の住宅に不満と回答した者

いる（図1-2-57）。

### イ 今後、高齢期に備えてリフォームを考えている人は3割弱

内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成18年）によると、過去5年のリフォームの経験についてみると、「改造（リフォーム）はしていない」が60.3%となっている。リフォームの内容をみると、「塗装、防水などの外壁の補修」が14.5%と最も高く、次いで、「瓦のふきかえなどの屋根の修復」が10.8%、「浴槽を入りやすいものに取り替え」が

7.8%、「手すりの設置」及び「台所のコンロを安全で使いやすいものに取り替え」がそれぞれ7.4%となっている。

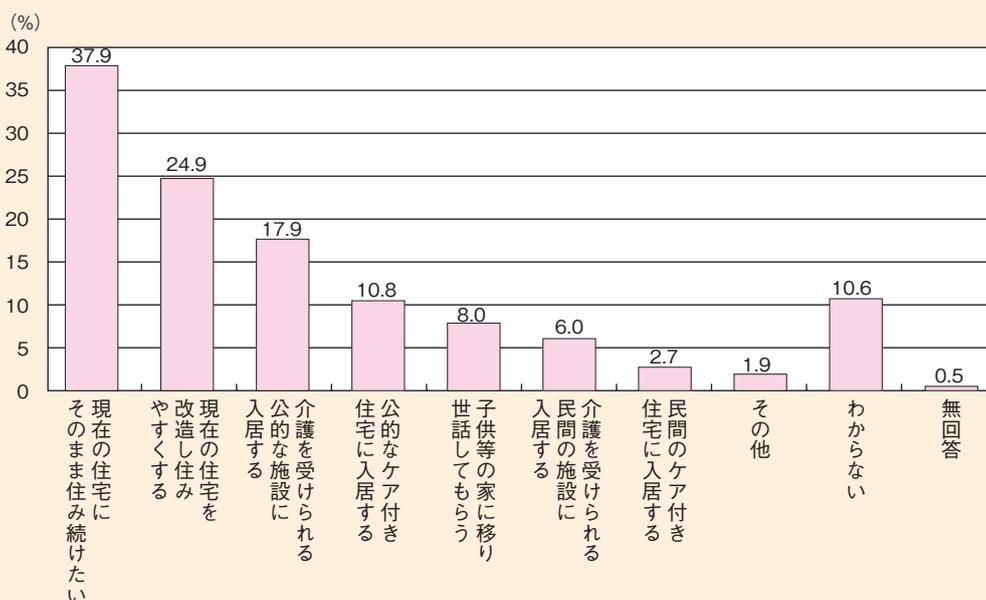
また、今後の高齢期に備え、「リフォームを考えている」は27.2%、「新たに住宅の取得を考えている」は10.2%であった（図1-2-58）。

## （2）高齢者の安全・安心

### ア 交通事故は増加傾向

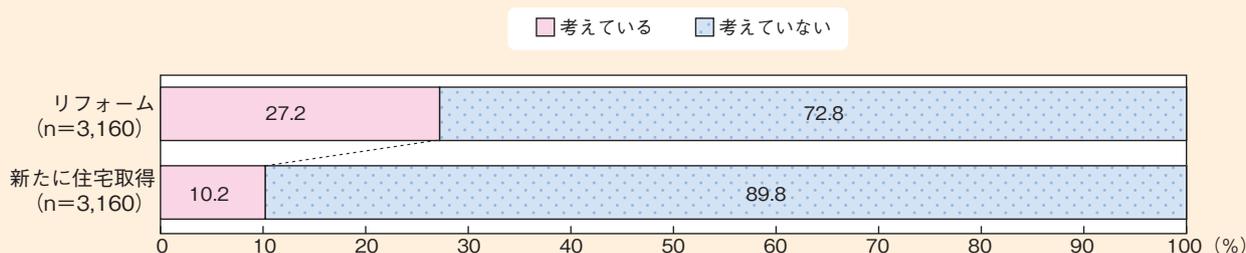
65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成20（2008）年は2,499人で14（2002）年より減少しつつあるが、交通事故死者数全体

図1-2-57 虚弱化したときに望む居住形態（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成18年）  
（注）調査対象は、60歳以上の男女

図1-2-58 今後の高齢期に備えてのリフォーム等について



資料：内閣府「中高年者の高齢期への備えに関する調査」（平成19年）  
（注）調査対象は55歳～64歳の男女。